

第4回放課後子どもプラン運営委員会

日時 平成29年10月18日(水) 午前10:00から11:30

場所 小金井市役所第二庁舎801会議室

出席者 田中委員長、浦野副委員長、石原委員、志波委員、佐野委員、多田委員、野崎委員、本川委員、内田委員、大久保委員、内田委員、菊池委員、加藤委員、伏見委員、富沢コーディネーター、伊藤コーディネーター、小岩コーディネーター、古源コーディネーター、森田コーディネーター、西田コーディネーター、吉田コーディネーター、伊野コーディネーター、小堀係長、吉楽、

欠席者 永井委員、内海委員、林委員、小林委員、梶野委員、

傍聴者 1名

【事務局】社会教育委員が9月で期が変わり、放課後子どもプラン運営委員が石原委員に変わりました。ご挨拶をお願いします。

【外部委員】前原小でPTA会長をしています石原です。初めて出席させて頂いたので、今後お役に立てるように頑張りますので、よろしく願いいたします。

【委員長】それではこれより第4回放課後子どもプラン運営委員会を始めます。

1 各小学校区の事業の進捗状況等について

【一小】1学期に2回程教室を中止した。わらべうた遊びのかざぐるまはゆっくりめな子ども達が参加することが多く、今後特別支援学級の子にも声掛けしていく。

【二小】予定通り開催した。今週末に70周年記念式典等があり、その影響で使えない教室が出たため教室を変更した。一年生や学校を把握していない子は慣れない教室を使うため、戸惑っていた。

【三小】予定通り開催した。モルドバ共和国のゲストを招いて交流会を予定しているので、見学に来てください。三小はイベント型で土日が多いため、準備が多く、現役の保護者が少ないという特色がある。今後日常的な教室を増やしたいが、教室数が少なく、来年児童数が増えそうだという校長の話もあり、活動を増やすことが難しい。

【四小】毎週火曜日金曜が校庭遊び、水曜が室内遊び。9月は運動会の練習が入ったため、校庭遊びが2回しかできなかった。10月から予定通り開催予定。

【東小】図書クラブが週2回、英語クラブが週2回。他に、平日に国際交流グループ、土日におやじの会、長期休みにふくろう工作教室を開催予定。卒業式などで教室が使えなくなる時に学校から教室を借りられるようになったので、なるべく放課後子ども教室を行いたい。課題は平日に校庭体育館が全く使えないことである。

【前原小】毎週月曜日金曜日の校庭遊びと、低学年見守り、クラブト教室を年1

回実施。怪我や事故もなく概ね良好に実施した。1学期は37回実施、執行率50%。多目的ルームが使用できなくなるので、今後は家庭科室や低学年の教室で実施予定。

【本町小】水曜日は放課後図書室。木曜日はレッツエンジョイイングリッシュ。今月末はハロウィンイベントを開催予定。金曜日は宿題相談、自由遊び、6時間目終了後は校庭遊び。9月は折り紙教室、理科工作、ペーパークラフトを実施。不定期にスポーツ教室を開催。12月にトランポリン教室を開催予定。10月頭に推進委員会を開催し、来年度の計画を検討した。その後校長副校長先生と相談し、来年も同様の形で多目的室と校庭、雨の場合は体育館で、実施計画を進めています。

【緑小】1学期は38回終了。2学期は個人面談期間にも開催予定。9月2日土曜日おやじの会水鉄砲大会は雨により中止。申込制だと多数の参加があり、教室を増やさざるを得ない状況である。2学期から4年生以上のジュニアボランティアが毎回2～3名参加。ストロー教室は85名が参加し、3教室で対応した。現在学習アドバイザー8名、安全管理員40名が不足しているため、今後は1日2部制にしたり、無償アドバイザーで対応予定。先日の推進委員会では、放課後子ども教室の活動のゴールが見えなくて不安、大地震の際の対応が不安、緊急時対応で、放課後子ども教室の手引きには、安全管理リーダーから学校に名簿を引き渡し、後は学校に準ずるとあるが、それが各学校に行政からお願いできているのか、という意見が出た。

【南小】9月4回、10月5回開催予定。新1年生は9月から参加募集開始。9月から5・6年生のジュニアボランティアを開始し、10月に6年生3名の応募があった。

【委員長】質問は。

【副委員長】緑小から「ゴールが見えず不安」という声があったが、どういう意味か。

【コーディネーター】一昨年度に教育長から、平成30年度を目途に、と話が出たが、目途とは何なのか。緑小は毎週水曜日と不定期にやっているが、これをゴールとしていいのか。今のボランティア体制でこれ以上増やしていくのか等。

【副実行委員長】実行委員会の報告について。9月12日開催時では、安全管理員の広域的配置について提案が出たが、現在校区内で対応可能なため、今後必要に応じ検討することになった。運営委員の教室見学について、多くの方に見学してもらいたいが、事前連絡をお願いしたい。10月12日開催時は、安全管理員の配置基準について、様々な状況で加配が必要だが、原則各校内の予算内で調整し、加配理由は事務局に報告することになった。予算の進捗状況の把握のため、10月までの実績と今後の執行計画を提出し、11月の実行委員会で再配分予定。

また平成30年度予算を10月27日までに事務局に提出することになった。課題は、各学校の推進委員会でコーディネーター以外の推進委員に謝礼が出ないため、その予算計上ができないか。また、運営委員長、副運営委員長は要綱で実行委員会のメンバーにも入っているが、年10回の会議に無償で参加しているため、謝金が出せないか。また、実行委員会預かり団体について、予算は現状維持もしくは削減という方針でやっているが、今後中学校での活動等をどのような方針で行うのか、どの会議で誰が決めるのか等、今後の課題として話が出ました。

【事務局】見学の報告です。9月28日(木)、本町小レッツエンジョイイングリッシュ。10月4日(水)緑小マンガ教室。同日四小室内教室。10月5日(木)東小キッズイングリッシュクラブを見学しました。

【外部委員】会議の3分の1の時間を報告に使う状態はいかがなものか。

2 全体の進捗状況について

【事務局】別紙進捗表のとおり、1学期終了時点で昨年と比べ、回数が16回増、参加人数617人増。ほぼ全ての数字は上向いている。予算進捗率は1学期終了時点では昨年とほぼ変わらないため、今年度末時点でも、前年度末同様95%近い執行率が見込まれます。

3 放課後子ども総合プラン協議会設置要綱について

【事務局】来年度から協議会を設置するため、要綱案を配布した。1条「設置」。学校、学童、放課後子ども教室の関係者が顔を揃え、情報共有を図ることが目的。第3条「組織」。学校、学童、放課後子ども教室、行政から、各2名ずつ同じバランスで参加することを考えた。第5条「会議」。協議会は、設置1年目は生涯学習課、2年目からは放課後子ども教室関係者に主体となってやってもらいたい。第6条「謝礼」。第3条(4)の放課後子ども教室推進委員会委員のみに支払う予定。第7条「委任」。想定外のことは7条を適用する。

【委員長】要綱はまだ確定ではない。皆さんに検討して頂きたい。

【外部委員】小金井市としては放課後子ども総合プランをどうするかが見えない。単に協議会を設置しなければいけないから協議会を設置するというように見える。

【内部委員】他市で学童と合体させる一体化をやっているところもあるが、小金井市では、まず一体型を目指していく。今年4月に国から地域学校協働活動の計画が出て、それが先の目的になるだろうが、今後どうなるかわからない。市としてはまず一体型、協議会を設けて、安全安心な居場所をしっかりと確保するというところから手を付けたい。

【コーディネーター】協議会のメンバーでボランティアとしてやっているのは放

課後子ども教室のメンバーだけで、謝金は放課後子ども教室関係者に出るというが、複数の推進委員の中の2人しかもらえないという中で、協議会をまとめるという負担も、ますます放課後ボランティアにのしかかってくる。ここまで責任をもたされると、ますます担い手が出てこなくなる。

【内部委員】協議会の実績がない中で皆不安だろうが、5条で1年目は生涯学習課が主体となると記載した。30年度は4校先行で、31年度から全9校で実施する。30年度でやったことで、ある程度運営が見えるのではないか。その中でご協力いただける部分はやっていただければありがたい。そこで完全に手放すということではなく、その後も協力していく。31年度から始まる5校についてもこちらが主体になってやっていく。30年度要綱改正でもう一度議論し、様々な意見が出ると思うので、改めて議論していこうと考えている。

【コーディネーター】放課後子ども教室を始めるときも、やってみて駄目なら何とかするというあやふやな感じで続けて今に至る。最初にきちんと決めないと、うやむやで、責任は現場に押し付けられるという思いがあるので、きちんと検討して頂きたい。

【外部委員】市で考えている一体型はどういうイメージなのか、もう一度説明して頂きたい。また委託されている学童はどこまで総合プランについて認識を深めているのか。

【内部委員】今は学童、学校、放課後子ども教室とそれぞれ別個にやっていて、顔を突き合わせて話す機会がない。その中で協議会を設け、プログラム、スケジュール、情報共有、空き教室等を話し合い、実現できることは実現し、出来ないことは止むを得ないが、とにかく話し合う場を設ける。何もしていないよりは一歩二歩でも進んでいくのではないか。まずはそこから取り掛かり、放課後の子どもの居場所を確保する考え。要綱案は、いきなりハードルを高くするより、まずは顔を突き合わせて話す場を設けられればと考えている。まずは一体型についてしっかり進めたい。

【内部委員】まだ私から指導員に具体的な話はしていない。ただ何度か生涯学習課と児童青少年課で打合せた内容の範囲内で、直営指導員の打合せで協議会について話している。委託先には具体的に話していない。

【外部委員】前の会議で、一体型には協議会が必要だが、連携型には不要という話があった。また平成30年は4校先行となっているが、4校は具体的に決まっているのか。

【内部委員】4校はこれから選定して頂こうと考えている。国の方針は一体型には協議会が必要で、連携型には不要だが、出来れば協議会は全9校区で設置したいと考えています。

【外部委員】国からは最低限一体型には設置して下さいという考えだが、小金井

市では一体型連携型、全て協議会を設置して運営していくつもりか。

【内部委員】そのつもりです。

【外部委員】放課後子ども教室の課題は、人材確保が難しいこと。小金井市内に人材センターがなく、コーディネーターがつてで人を呼んでくる。それを行政がバックアップできないか。今は実行委員会の報告を聞けるが、どんな問題があり、どう対応しているのか。その辺を総括した上で、学校・学童との連携の話を前に進めていくべきではないか。

【内部委員】バックアップは極力やっていくつもりです。

【外部委員】放課後子ども教室の総括を会議でやっていない。一つは人材について、コミュニティ文化課、図書館、公民館。様々な所で様々な情報を持っているが、それを一本化できていない。もっと行政で連動して、一本化して頂けないか。

【外部委員】のびゆくこどもプランに、学童の人数の見込みに対し、受け入れ態勢が伴わない現状で、放課後子ども教室との連携に努めていきたいという児童青少年課の意見があったが、生涯学習課では、放課後子ども教室が学童の補完をするものではないという回答があり、整合性が取れていないのではないか。また、学童OBとして学童連絡協議会に出席したので報告します。学童の保護者は放課後子ども教室活動をよく理解しており、学童児童が体験できないことを放課後子ども教室で体験できるのはありがたいと思っている。校庭開放等、学校区ごとに活動にばらつきがあるので、是非9学童の子ども達を含む全児童に参加の機会を統一してほしい。学童と放課後子ども教室が一体化するのは時期尚早ではないか。一体型にもっと人材や予算を投入しないと難しいのではないか。放課後子ども教室コーディネーターがボランティアでやって下さっているところに、自分たち学童の児童を預けるのは負担となるのではないか。放課後子ども教室と学童が住み分けをはかり、学童の児童が放課後子ども教室に通いやすくするためにも、総括、制度化等、今の活動を見直していく必要があるのではないか。今のまま協議会を作っても、各校区の話し合いに学校学童関係者が入るだけなので、全体が均衡には近づかないのではないか。

【外部委員】スケジュール表と要綱について、要綱は非常に漠然として不安がある。話し合いが足りない。もっと話し合うべきではないか。

【内部委員】地域の実情に合わせることも重要。あえて漠然として、融通をはかれるようにしてある。平成30年度中に改正予定で、平成31年度に本実施予定である。

【外部委員】協議会は平成31年度から実施するのか。

【内部委員】平成30年度から4校実施、平成31年度から9校実施予定です。

【コーディネーター】今後は学校、学童も含めスケジュール調整が大変となる。まずは子どもの利益主体で考えて頂きたい。

【委員長】放課後子ども教室は次世代育成が大きな目標。今後も充実に向けて取り組みたい。

5 その他

【委員長】第2回、第3回会議録を配布したので、了承をいただければホームページで公開します。